

港区国際化推進プラン

2015年度～2020年度

(平成27年度～平成32年度)

Minato Internationalization Master Plan FY2015-FY2020

미나토구 국제화 추진 계획 2015년도-2020년도

港区国際化推進計画 2015年度-2020年度



港区

「同じ釜の飯を食う」ホームビジット

-等身大の国際交流がやがて社会を変える-

NPO 法人 NAGOMI VIZIT 代表理事 楠 めぐみさん

NPO 法人 NAGOMI VISIT（なごみ ビジット）は、外国人旅行者を自宅に招いて一食を共にするという独自のホームビジットモデルを考案し、提供している団体です。

自身の体験から生まれた、ホームビジットという新しいかたち

訪日旅行者向けのプロモーションの仕事をしていた楠さんは、2009年にデンマークを旅行した時、知人の家庭で食事をご馳走になる機会がありました。ごく普通のデンマーク人の生活がとても楽しく興味深かったことから、日本への外国人旅行者にも同じような体験をしてもらいたいと考え、2011年9月、知人とともに、「世界中の旅人と食卓を囲む」独自のホームビジットの運営を始めました。

この事業では、受け入れ側のホストも訪れる側のゲストも、まずはHPからエントリーします。ホスト登録者には事前に活動の詳細資料を渡し、運営者（NAGOMI VISIT）がいつでも質問を受け付ける環境を整え、お互いに理解を深めてから登録を行っていただくこととなります。そして、ホストとゲストの希望を考慮しながらホームビジットのマッチングを行っています。

等身大の交流への共感

一般的なホームステイと比べ、「普段どおりの食事を一緒に食べながら2～3時間交流する」独自のしくみは、ホストにとっては自宅で気軽に国際交流ができ、ゲストにとっても気軽に日本のリアルを体験することができます。まさに「同じ釜の飯を食う」ことで、等身大の異文化交流が体験できるしくみです。こうした等身大の異文化交流が共感を生み、登録するホストが増えています。2015年1月現在で374件のホスト登録があり、ゲスト参加人数は世界各国から年間500件以上にのぼります。

ホスト体験者からは、「街中の旅行者を身近に感じるようになった」「単語レベルでも意志の疎通ができて交流に前向きになった」など次の受け入れに意欲的な感想が多く寄せられています。

安全で、安心して楽しめるホームビジット

訪問前にメールやSNSで事前に情報交換して仲良くなってもらう工夫（必要に応じて翻訳）や、ホスト全員にボランティア保険に加入してもらうこと、食事制限に関するサポート、ホスト・ゲストからの質問にきめ細かく対応するなど、交流したい気持ちを妨げない様に、安全・安心への様々な配慮を行っています。楠さんは、「地方都市を中心にさらにホスト登録を拡大していきたい」と語ります。

その後も続いていく「絆」

「同じ釜の飯を食う」交流は、2～3時間の短い国際交流ですが、楠さんは『その後も続く』ことの大切さを語ります。「2～3時間だけ受け入れてその場だけ楽しくして終わりか、というとそうではなくて、その後のつながりが一番大切だと思っています。ホストが受け入れたあと、ゲストは旅行が終わって帰るのですが、今はメールやSNSなどで、『何かしら、つながりがずっとあります』という方がほとんどです。」そして、「個人対個人としての付き合いが、もっとグローバルな社会につながっていくことが、私たちが最終的に目指すことだと思っています。」

個人と個人のつながりが続き、お互いを尊敬し合う「つながり」を増やすことによって、国が異なる人々の中の偏見や差別意識が減る。異文化理解が深まることで、社会全体のマインドが変わり、やがては、多文化共生社会を実現できる・・・NAGOMI VISITは、活動の先に、そうしたビジョンを描いています。

NPO 法人 NAGOMI VISIT : <http://nagomivisit.jp/>



ホームビジットの様子